

《担当者名》教授 / 浜上 尚也 教授 / 小島 弘幸 准教授 / 小林 大祐 准教授 / 寺崎 将

【概要】

- 食品による生体機能修飾、食品と薬物の相互作用及び健康と環境に関する講義を通して、予防医学における食品の有用性に関する応用的知識を修得する。
- ・食品成分が生体に及ぼす影響を代謝と関連づけながら分子レベルで学び、あわせて生活習慣病の原因となりやすい食生活の偏りを、糖質、脂質、タンパク質の代謝機構から理解する。
 - ・保健統計学、疫学、毒性学、環境科学の領域を学ぶことで、人々が清澄な環境の中で健康維持を目指すための知識や方策を修得する。
 - ・健康の維持や増進に貢献するため、生体内や環境中で引き起こされる事象を、環境化学物質による健康影響の観点から分子レベルで理解する。

【学修目標】

- ・衛生化学、食品衛生学的知識ばかりでなく、健康や疾病と食品とのかかわりの観点から総合的に考察し、概要を説明できる。
- ・環境と健康を予防薬学の観点から考察し、健康の維持・増進および疾病の予測・評価・判断に必要な高度な理論を理解し、実践できる。
- ・疾病予防を目的とした医療をセルフメディケーションの立場から理解し、科学的根拠に基づく積極的な生活習慣改善法を構築できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 ） 8	栄養と食品機能	<ul style="list-style-type: none"> ・三大栄養素に関する最近の知見を概説できる。 ・ミネラルやビタミンに関する最近の知見を概説できる。 ・「日本人の食事摂取基準」の概要について説明できる。 ・「日本人の食事摂取基準」の策定に用いられた科学的根拠を概説できる。 ・生活習慣病とエネルギー・栄養素との関連について説明できる。 ・特定保健用食品の有効性のメカニズムを概説できる。 ・食品成分の機能性について概説できる。 	浜上 尚也 小林 大祐
9 ） 15	健康と環境	<ul style="list-style-type: none"> ・疫学研究の手法を理解し、疾病予防に関する環境要因の重要性を説明できる。 ・環境因子がエピゲノムに影響を与える仕組みを理解し、生活習慣病との関係を概説できる。 ・疾病の病態を把握し、環境因子が誘因する薬との相互作用を概説できる。 ・異物の体内動態、異物代謝酵素とトランスポーター、化学物質の毒性発現機構について概説できる。 ・健康食品・メディカルサプリメントのエビデンス、病態と成分の相互作用について概説できる。 	小島 弘幸 寺崎 将

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業態度(30%)、課題レポート(70%)

【教科書】

なし